

社会実験による町並み観光の可能性の分析：足助における「まちなか観光」3

正会員 ○西川 亮*
正会員 窪田 亜矢**
正会員 六田 康裕*

足助 観光 社会実験
歴史的町並み

1. 本稿の目的と構成

本研究は、2008年11月に東京大学都市デザイン研究室が主体となって豊田市足助地区¹において実施した観光社会実験の概要及び結果をまとめ、今後の観光のあり方について示唆を得ようとするものである。特にその3では、香嵐溪からまちなかへ誘導した観光客の動向や意見を元に、今後の町並み観光のあり方を探るものである。

2. 足助のまちなか観光の現状

近年では、中馬のおひなさん(2月～3月)やたんころりん(8月)のように、まちなかでのイベントも増えている。特に中馬のおひなさんは1ヶ月間に観光客が7万人を超え、新たな観光としてのまちなか観光が期待される。



写真1：中馬のおひなさん

このように近年では多くの取り組みがなされているものの、それらはまちなかのイベントに留まっており、町並みを主とした観光はまだ確立されていない。足助の町が将来的に持続的な発展を遂げるためには町並みを活かした観光が有効であると考えられる。足助には歴史的に重要な価値のある町並みが保存されており、十分な観光資源になり得る。ただし、資源の維持管理も重要であることを忘れてはならない。

3. 観光社会実験

3.1 社会実験の意義及び目的

足助町の町並み観光の可能性を探るために社会実験²を行った。香嵐溪から足助の町並みへ誘導した観光客に、町並みを知る機会を提供し、町並み主体の観光を作り出すこと、及びその結果を踏まえて足助地区の将来の町並み観光の可能性を探ることを目的とする。

社会実験は11月下旬の2日間に渡って実施した。なお、本社会実験は足助観光協会及び豊田市の協力を得ながら基本的に実施・運営ともに都市デザイン研究室が行った。

3.2 具体的な施策

以上の目的を達成するため、以下の3点の施策を実施した。また、社会実験の評価をするために観光客へアンケート(現地配布・現地/郵送回収 875部配布、77部回収 回収率9.2%)や住民へのヒアリングを行っている。

(1) 地図による町に関する情報の提供

社会実験のために地図を作成した。表面を「町から見る香嵐溪」とし、裏面に「足助の町並み」として足助を楽しむた

めの歩き方を載せ、誰でも足助の町並みの歴史や文化を楽しめる工夫をした。なお、表面に関しては『社会実験による町並みへの観光客誘導可能性の検証：足助におけるまちなか観光』に詳細を譲ることとする。

□ 作成地図「足助の町並み」の概要

■ 馬が支えた町

足助の歴史を簡潔に紹介している。

■ 町と川のつながり／■ 町と小路のつながり

足助の町の特徴である、川や小路とのつながりを説明することで説明することで、町を訪れる人が足助の町の空間特性を把握できるようにしている。

■ 足助七景

足助の町の楽しみ方を7つのポイントに絞って説明している。

■ 足助建物図鑑

足助の建物の特徴を簡潔に図を用いて紹介している。

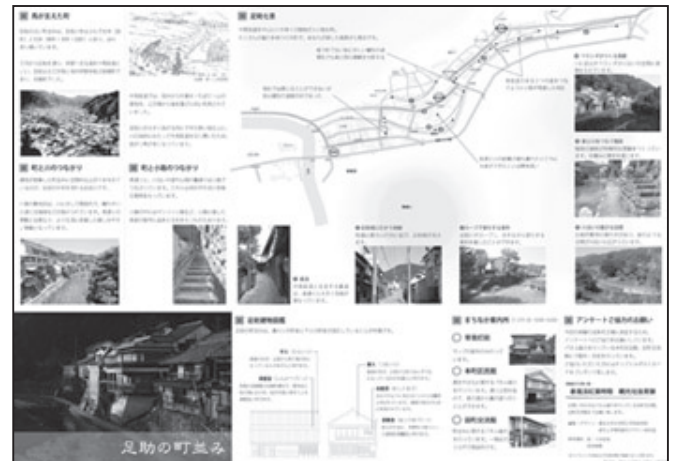


図1：作成地図「足助の町並み」

(2) 観光案内所の設置

現状ではまちなかに観光案内所が不足している。多くの観光案内所は香嵐溪付近にあり、まちなかで観光情報を提供する必要がある。そこで、町並みの中心にある本町区民館及び田町交流館を用いて、観光案内所を運営した。そこでは、足助の文化や歴史、建造物の特徴などを説明したパネルを展示した。

(3) 2箇所の案内所で異なる情報の提供

本町区民館及び田町交流館では異なる情報を提供することにより、2カ所を巡ることで足助についてより詳しい情報が得られるようにした。すなわち、本町区民館では足助の歴史や文化に関するパネルや本町の古写真の展示を行い、田町交流館では足助の町並みに関するパネルや田町の古写真の展示

を行った。これにより、観光客の回遊範囲を広げようとした。

□ 本町区民館に展示したパネル

- 中馬街道の歴史：中馬街道の歴史的な役割について説明
- 道の変遷：足助を通過する道の変遷を追う
- 足助川の歴史・文化：川と町のつながりについて説明

□ 田町交流館に展示したパネル

- 足助の景観の成り立ち：町の景観の捉え方を説明
- 伝統的な景観と町家の特徴：町家の外観・平面の特徴の説明
- 町家と地形がつくる景観：町家の特徴と地形の関係を説明



図2：展示パネルの例

3.3 社会実験の結果

アンケートによると、多くの観光客が観光案内所を使っていた。まちなかの2箇所に観光案内があるとまちなかで情報案内をすることで、行き先が明らかで歩きやすくなる、観光情報を活かしやすい、などの利点があることが分かった。また、図に示すように、観光客は本町を越えて田町付近まで訪れていて、観光案内所がまちなかの回遊性を高めたと考えられる。しかし、住民へのヒアリングからは人件費を考えると、2つ以上というのは難しいとの意見もあった。

また、多くの観光客が足助の町に「できればもう一度来たい」とし、その理由を足助の町並みに求めていることから、町並みが観光客を引きつける魅力を持っていることが分かる。しかし、食事処がないことや観光案内所がないことなどの問題を抱えている。また、まちなかで中心性を持つような施設がないことを指摘する意見もあり、将来的に観光を進めるのならば、このような点を考慮する必要がある。

4. 今後の町並み観光に向けた示唆

本社会実験から、町並み観光に向けて、以下の示唆を得る。

4.1 地域に開かれた施設の活用

観光案内所に用いた、本町区民館及び田町交流館の使い方について、観光客のために開かれた空間として提供することによって、観光客の回遊を高める可能性がある。そのためには、例えば、商店街の店主を中心になるなど、地域の住民が主体となって運営を図る必要がある。

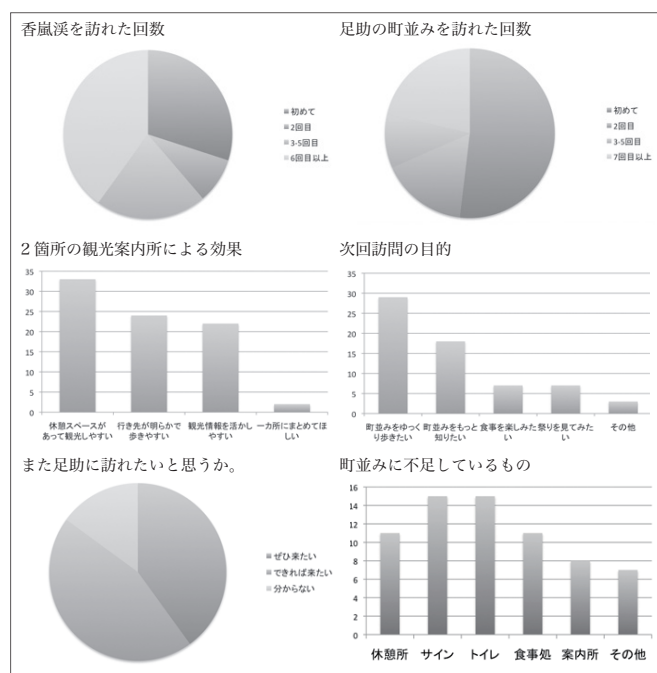


図3：アンケート結果



図4：観光客の動向（色の濃さが訪問者数の大小を示す）

4.2 観光スタイルの議論

観光客へのアンケートの結果、町並み観光に不足している点が明らかになった。観光を進める上では観光客を正確に誘導するためのサイン計画は不可欠であろう。一方、観光施設のあり方は観光客の意見を取り入れながらも住民や行政で議論する必要がある。

4.3 長期的視点の必要性

現状では、町並みの魅力は観光客の多くが感じているものの、その魅力を十分に伝えるだけの整備は整っていない。そのため、現時点では観光の促進によって利益だけを追うと、足助の魅力を十分に伝えきれずに、観光客を失うことになりかねない。従って、町並みの整備を進めながら徐々に観光を進めていく必要がある。長期的な視点で観光を進めていかなければならない。

¹ 足助地区の町区分については『まちづくりの経緯をふまえた町並み／景観／観光の今後：足助における「まちなか観光」1に添付の地図を参照のこと

² 社会実験の詳細については『社会実験社会実験による町並みへの観光客誘導可能性の検証：足助におけるまちなか観光 その2』を参照のこと